

つなから

94号
2021.7.13



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸高等学校 諏訪内博彦

青森県高等学校PTA連合会事務局

〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587
E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp



←「高P連公式HP」QRコードからアクセス!!
http://www.aomori-koupren.com/



会長あいさつ

東北地区高等学校PTA連合会
青森県高等学校PTA連合会

会長 田名部 智之

「志向は現実化する」

令和3年度がスタートし、依然コロナ禍において様々な制限や配慮がありながらも、各校ともに今年度行事を進められている事に敬意を表します。特に昨年は中止でしたが、2年ぶりに県高校総体も開催されましたことに選手をはじめ競技運営・サポートに尽力された関係者の皆様へお礼を申し上げます。学校行事やPTAの行事を開催するにあたり、批判や慎重なご意見も多く聞こえておりますが、「出来ない」「やるべきではない」から「どうすれば出来るか」を考え、実行してゆく事が大切です。高等学校生活は3年間と限られており生徒達の今後の人生を大きく左右する大事な時期です。行事の規模を縮小したり開催時間を短くしたり、密を避けたり感染症対策は当然必要ですが、全くのゼロにするのは運営のかじ取りを担わせてもらっている役職者としては考える余地はあのではないでしょうか。

今年度、第70回東北地区高等学校PTA連合会青森大会（東北大会）が開催予定でしたが、リアルにての開催は中止とさせていただきます。しかし前段申し上げた通り、昨年の秋田大会に引続き2年連続中止、ゼロという状態にはせず、バーチャル大会に移行する事に決定しました。青森県の魅力と生徒達・我々PTAの活動内容を動画コンテンツにより、発信いたします。初めての取組みとなりますが歴史に残る東北大会となるでしょう。

幸い、テクノロジーの発達により、会議やイベント、アンケートの集計等が非接触にて安価で容易、スピーディーに出来るようになりました。これからのPTA活動の転換期となるきっかけの年と位置付け、デジタル化・IT化を推進し新たな時代への準備をしなければなりません。いまの状態（ピンチ）を変革のチャンスとしてとらえ、ポストコロナに向け、準備をした組織と、嵐が過ぎ去るのをジッと待ち、何もしない組織では数年後の状態に大きく差が生じるはずで、よく、「ピンチはチャンスです」という言葉がありますが、基本的に「ピンチはピンチです」ピンチの時にピンチを乗り越える策を講じて、実践した者だけにチャンスは訪れるのです。

子供達の為に今の時代を生きる、我々の責任をしっかりと果たして参りましょう。

既に全国民の20%以上に1度目のワクチン接種が終了しています。専門家の話では接種率が40%を超えると格段に感染者が減り、50%を超える国では日常を取り戻しているそうです。もう少し我慢が必要ですが、そろそろゴールが見えて来ましたので、前向きにPTAの活動計画を立ててください。そして、計画された行事に参加する準備をしましょう。正月は越してしまいかもしれませんが、年度は超えない時期までに皆さんとお会い出来る事を楽しみにしています。「志向は現実化する」といわれていますので、ポジティブ志向にて共に活動して参りましょう。宜しくお願いいたします。



明朗旗 青森西高等学校



闘魂旗 八戸工業大学第一高等学校

校 介 盟 紹 加

新たな未来を切り拓く

黒石高等学校

昨年4月、中南地区統合格校として青森県立黒石高等学校（令和2年度設置の黒高）が開校した。統合格校になったのは昭和23年度設置の黒石高校と黒石商業高校である。統合格により2つの黒高が同じ校舎を使用しているため、校舎内にはキャメル色のブレザーの黒高生と、統合格校の制服である紺色のブレザーに袖を通す黒高生が混在している。

統合格校の黒高は、普通科、情報デザイン科、看護科の3学科を有している。普通科では理類型、文類型の他、情報系、家庭系、福祉系の3つから好きなコースを選択できるスキルアップ型を設け、生徒の多様な希望進路に対応する教育課程とした。情報デザイン科では黒商での学びを継承しつつ、商業科目は会計分野をやめてマーケティング分野の学びを厚くした。今年度は全国高校生1億円プロジェクトや高校生と考える中南地域ビジネス創出事業等外部と連携した取組にも挑戦している



情報デザイン科授業風景

看護科では従来からの職業人教育を継承し、高校3年間と専攻科2年間の5年一貫教育により看護師国家試験における高い合格率を維持していく。

情報デザイン科の設置により、校舎内には主にコンピュータグラフィックスの実習で使用する「デザイン実習室（通称『Macルーム』）」や描画系の実習で使用する「基礎デザイン実習室」が作られ、実習環境を整備した。

また、黒商からは、黒商教育の精神的支柱である「誓いのことば」や伝統行事である「ペーパーファッションショー」等を引き継いだ。特にペーパーファッションショーについては、その行事に対する黒商生の思いも引き継ぎ、さらに魅力あふれるものになるよう、生徒教職員共々創意工夫を凝らして取り組んでいる。

令和4年3月、昭和23年度設置の黒高と黒商が閉校する。新しい黒高は両校の伝統を引き継ぎ、新たな未来を切り拓いていく。



黒高祭 ペーパーファッションショー

校 介 盟 紹 加

開校を迎えて

五所川原高等学校

令和3年4月7日に開校式を迎えた五所川原工科高等学校は、西北地区統合格校として金木高等学校、鶴田高等学校、板柳高等学校、五所川原工業高等学校の4校が統合し新設された、普通科（2学級）と工業科（機械科・電子機械科・電気科の3学級）が併置する県内初の県立高校です。今年度は五所川原工科高等学校1学年と五所川原工業高等学校2・3学年の生徒が同じ校舎で学校行事や部活動、PTA活動等において共に活動しています。



開校式

五所川原工科高等学校は、校訓である「誠実」・「創造」・「礼節」のもと、心身の発達及び進路にに応じて、高度な普通教育及び工業教育を実践し、幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会の発展に寄与する人材の育成を目指しています。生徒の「主体性」を育む教育活動の一環として、本校では探究型学習及び探究活動を取り入れたカリキュラムにより、生徒自らが課題を発見し解決に向けて主体的・協働的に取り組み、新たな学びに向かって自走する意識・態度の涵養を図る様々な活動を行っています。

4月下旬に本校第1期生へのオリエンテーションとして、未来を考え探究する力を育成するためのSDGs教育プログラム

を実施しました。コンセプトとして「自分の行動で未来は変えることができる」を掲げ、SDGsの本質的理解に加え、主体的な学びや社会参画への意欲喚起に繋がるワークショップを行い、生徒はグループ活動のなかで自己の役割を自覚し他者と協働しながら、生き生きとした様子で活動していました。

5月上旬には五所川原市長による講義「地域が求める未来を担う『人財』」5月下旬には五所川原商工会議所会頭による講義「エルムの街の歩み」仕事について考える」を開催し、生徒は社会貢献や仕事の意義について学び、自分自身の在り方について深く考えることができました。講話後の意見交換や発表を通して思考力・表現力が培われ、進路に対する意識向上への良いきっかけになったのではないかと思います。

本校はこれからも様々な探究活動を通して、生徒自身が自分らしい生き方を実現するために必要となる資質や能力を育み、保護者や地域の要望を的確に捉えながら、生徒一人ひとりが生き生きと学び、主体的に活動できる学校づくりを推進して参ります。

今後とも本校に対するご理解、格別のご支援とご協力をお願い申し上げます。



SDGs授業風景

「未来拓創」新しい時代を切り拓いていく
人づくりを目指して
三本木農業恵拓高等学校

十和田西、六戸、三本木農業が統合した三本木農業恵拓高等学校が、令和3年4月8日に開校し新入生200人が新しい歴史の第一歩を歩み始めました。県内唯一の普通科と農業の学科が併置された高校で、普通教育のほか地域産業や観光を学ぶことのできるオンリーワンの普通科、食・環境・生命について総合的に学びプロフェッショナルを育成する農業の学科（植物科学科・動物科学科・環境工学科・食品科学科）の5学科6クラスとなります。

開校式では、和嶋延寿教育長が開校を宣言し、来賓を代表して三村申吾知事及び小山田久十和田市長からご祝辞をいただきました。遠藤剛初代校長から



「校是の『未来拓創』には地域や青森県、そして日本の未来を生徒たちに託していきたい」という意味も込められています。5つの学科が互いに競い合いながらも協力し、新たな歴史を創っていく。そして新たな時代を切り拓いていく人づくりを目指す」と誓いの言葉がありました。

続く、入学式では、新入学生代表・類家百

香（食品科学科）さんが「これから始まる高校生活で新しい知識を学び学校行事や部活動に全力で取り組んでいきます。・・・3校の歴史と伝統を引き継ぎ、新たな三本木農業恵拓高等学校の生徒として自覚し、充実した高校生活を送ることを約束します」と挨拶した。この言葉に感動した遠藤校長が「そのような学校になるよう、共

類家さんは動じることなく元気に「ハイ」と心えました。まさに阿吽の呼吸といったところでしょうか。これはシナリオになかったことで、お互いの気持ちがお互いの気持ちが絶妙なタイミングで一致したようです。このエピソードからも、ワクワクするような学校の一端を知ることができます。



新入学生代表 誓いの言葉

なお、新入生が三本木農業恵拓で、2・3年生が三本木農業であることから、PTAの正式名称は、「三本木農業高等学校・三本木農業恵拓高等学校父母と教師の会」とし、一緒に活動しています。

出来る時に出来る人が出来る事を

青森西高等学校 前広報委員長 舘田 幸恵

青西PTA広報委員会は、年1回広報紙『西高通信』発行のため、学校行事（7月青西高祭・9月運動会・12月チャレンジカップ）での写真撮影と取材、青西高祭での模擬店出店（串焼きや焙煎コーヒー販売等）を主な活動内容としております。

西高通信には生徒の活躍は勿論ですが、西高生たまり場調査、西高生スマホ白書等、毎年アンケートを企画し掲載しております。多感な年頃の生徒達ですが、意外に素直な心内を綴ってくれるため、今感じることや交友関係、普段の行動等、なかなか興味深く面白い回答が集まります。本校の広報紙は平成30年度より3年連続でPTA広報紙コンクールにて優秀賞を頂きました。これは日頃の取材やこうした企画に対して、ご理解とご協力を頂ける皆様のおかげだと心から感謝しております。

昨年度はコロナ禍の影響で、取材は感染症防止対策を徹底した上で青西高祭と運動会のみ行いました。青西高祭では動画配信用の撮影にも初挑戦しました。多くの委員は取材機会に恵まれませんでしたが、令和元年度に活動の利便性向上のため立ち上げた広報ライングループが力を発揮し、情報を即時に共有する事で、委員はつながりを保つことが出来ました。この経験は大きな収穫であったと感じます。

ました。これは殆どの作業を担い、年間を徹して奔走して下さった渉外部の先生方のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

我々は「出来る時に出来る人が出来る事を」を合言葉に活動して参りました。どんな形で貢献出来るか悩み続けた昨年、この言葉は心に沁みました。コロナ禍での委員長を経験し、代々引き継がれた合言葉は、我々の大きな強みであることも実感致しました。生徒達は今も逞しく学校生活を送っています。その大切な瞬間を広報紙『西高通信』を通じて皆様にお届け出来るよう、広報委員会は今後もご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



取材風景



東北地区コンクール優良賞受賞

「やれることをやるしかない」

青森中央高等学校 演劇部

昨年5月、全国高校総合文化祭（高知市）が生徒の移動を伴わないWeb開催となることが発表された。WEB SOUNである。4年ぶりの出場が決まっていたわが青森中央高校演劇部の落胆たるや。だが、やれることをやるしかない。卒業生の抜けた穴を1年生で埋め、稽古を重ねた。高知で会えなくてもwebで会えると気持ちを切り替え、出品する舞台動画収録のため7月下旬に青森市内のホールを予約し、機材も調達した。ところがその収録も青森県高文連が示したガイドラインにより断念のやむなきに至った。県内の大会は3つが中止。なんとか開催できた2大会（地区大会、県大会）も無観客で行われた。東日本大震災の被災地応援のために作られ、2011年から全国各地と海外で105ステージを重ねている『もしイタ』もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら』も予定されていた



『もしイタ』の一場面

頑張っています 我が部活

公演は全て中止。昨年は新型コロナウイルスに振り回されつばなしの1年であった。今年度もまだ校外での活動は一切できていない。しかし、やはり、やることをやるしかないのだ。うがい、手洗い、手指消毒、健康観察、マスク、換気、ソーシャルディスタンス。万全の対策をしながら、毎日の練習に励んでいる。今は耐えるしかない。しかしこの霧が晴れば、再び全国を飛び回りたいと思う。

（顧問 畑澤 聖悟）

「ねぶたの灯を繋ぐ」

青森工業高等学校 ねぶた部



令和元年度 ねぶた運行風景

思わず風情に沿道から盛んな拍手が上がった。かつてのねぶたは現在のように台車に乗せたものではなく、人が担ぐ「担ぎねぶた」であった。灯りがろうそくから電球へと代わるにつれ、担ぎねぶたは消滅したが、伝統的な担ぎねぶたを高校生のもつエネルギーで復活させた。本校の担ぎねぶたの歴史はこうして始まったのである。

2020年夏、新型コロナウイルスの影響により、青森ねぶた祭は戦後始めて中止となった。創部以来はじめて「ねぶたのない夏」を過ごし、当たり前前のが何よりも幸せなことと気づかされた1年であった。そして2021年夏、本校ねぶた部は2年ぶりとなる青森ねぶた祭が開催されることを信じ、制作作業を進めている。今年の題材は世界文化遺産登録を目指す三内丸山遺跡をテーマに縄文人の姿をねぶたに表現した。

これまで幾多の問題を解決しながらねぶた制作を続け29年が経つ中で、今後の展望としては、新型コロナウイルスが早く終息し、これまで同様に全校生徒によるねぶた祭参加ができるよう願うばかりである。郷土に誇りをもち、伝統を継承できるようにさらなる発展に努め、時代が変化する中でも、全国に一つしかないこの部活を繋げていきたい。

（顧問 工藤 啓太）

「全国高総文化入賞を目指して」

五所川原第一高等学校 津軽三味線部

今年も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティア活動や大会が次々と中止になるのは？という不安を抱えた中、新年度がスタートしました。昨年は部員が6名と部活動に活気がなかったのですが、4月に9名の新入部員が加わり2年生2名、3年生4名の計15名。男子が加わったこともあり部活動全体が活気に満ち溢れています。

4月の部活動組織会において、部全体の目標を定めました。私たちは今年の夏、和歌山県で開催される、第45回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門に出場します。その大会で入賞することを目標に掲げ日々練習に励んでいます。今年の演目は、津軽三味線組曲「千歳」です。「千歳」には、「長い年月の間、継承されていくもの」という意味を含めました。文化は、世代から世代へと受け継いでいくという行為をしなければ継承されません。その大切な行為をすることが私達の役目であり、津軽三味線は、その役目を果たし現代に生きる私達の今を表現する大切な手段でもあります。私達が津軽三味線に巡り合えた喜び、そして今まで受け継いできたものが、「千歳」にわたり変わらない姿を保つことを願い演奏します。

私たちの演奏は合奏であり、3つの弦を巧みに操り、撥さばきを揃えることで感動を与える音色を生み出すことを最大の目標にしています。りんご節、津軽甚句、八戸小唄、三大ねぶた、津軽じょんから節などを通し、私たちの持つ若さ溢れるエネルギーを青森県の魅力として全国に発信し、届けてきます。

（顧問 阿部 実夢）



練習風景

令和3年度 一般会計予算

収入総額 14,207,500円
支出総額 14,207,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額	
会 費	6,867,500	事 業 費	5,505,000	
内	学 校 割	1,090,000	助 成 費	225,000
	40,000円×0校	0	組 織 活 動 費	2,200,000
	25,000円×34校	850,000	研 修 ・ 行 事 費	800,000
	10,000円×24校	240,000	負 担 金	1,170,000
	会 員 割	5,777,500	表 彰 費	270,000
	県立・全日制	4,920,000	会 報 費	840,000
私立・全日制	795,000	運 営 費	5,380,000	
定通・特別支援	62,500	会 議 費	650,000	
助 成 金	450,000	旅 費	2,000,000	
繰 越 金	5,989,768	印 刷 費	300,000	
雑 収 入	232	事 務 費	400,000	
受 取 手 数 料	900,000	通 信 運 搬 費	260,000	
内	自 転 車 総 合 保 険	400,000	渉 外 費	200,000
	高 校 生 総 合 保 障 制 度	500,000	慶 弔 費	60,000
合 計	14,207,500	人 件 費	1,350,000	
		使 用 料	100,000	
		雑 費	60,000	
		租 税 公 課	120,000	
		繰 出 金	100,000	
		予 備 費	3,102,500	
		合 計	14,207,500	

令和3年度 特別会計予算

収入総額 7,681,500円
支出総額 7,681,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	7,580,829	助 成 金	0
繰 入 金	100,000	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	671	予 備 費	7,681,500
合 計	7,681,500	合 計	7,681,500

令和3年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名	単P役職名
健全育成	委員長	田澤博明	田名部	副会長
	副委員長	櫻庭宏之	青森東	健全育成委員長
	委員	棟方晃	東奥義塾	委員長
	委員	的場由紀子	八戸東	健全育成委員長
	委員	安田昌孝	五所川原	健全育成委員長
	事務局長	越善一臣	田名部	渉外主任
進路対策	委員長	三浦繁子	青森中央	副会長
	副委員長	大湊京生	六ヶ所	会長
	委員	花田一男	弘前中央	会長
	委員	地代所友子	八戸商業	会長
	委員	小山内忠文	五所川原商業	副会長
	事務局長	齋藤隆	青森中央	渉外主任
調査広報	委員長	竹村智美	弘前南	調査広報委員長
	副委員長	松倉紀代子	名久井農業	調査広報副委員長
	委員	三上茂治	青森南	調査広報委員長
	委員	神泰樹	五所川原工業	会長
	委員	笹谷貴志	大間	副会長
	事務局長	齊藤聖一	弘前南	渉外主任
研 修	委員長	藤井小巻	八戸東	研修・母親委員長
	副委員長	松橋俊一	木造	研修委員長
	委員	工藤典子	浪岡	調査広報委員長
	委員	藤林美保	弘前実業	副会長
	委員	根岸孝子	三沢商業	研修委員長
	事務局長	佐々木周子	八戸東	渉外主任

令和3年度 事業計画

活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
 - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
 - 全国大会(松江市)へ積極的に参加する。
 - 各委員会活動を活性化する。
 - 各委員会主管の研修会を充実する。
 - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
 - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
 - 広報活動を拡充する。
 - 広報紙「つながり」(年2回発行)の内容を充実する。
 - リーフレットを新入生保護者に配布し、本連合会及びPTA活動の理解を深める。
 - 本連合会ホームページ(<http://www.aomori-koupren.com/>)により各種情報を提供する。
- 単位PTA及び地区協議会活動を助成する。
 - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
 - 単位PTA会長会議を開催(年2回)し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
 - 高校生の健全育成に取り組み活動を支援する。
 - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
 - 全国高P連賠償責任補償制度、自転車総合保険、高校生総合保険制度の加入率向上に努める。
 - PTA活動の望ましい在り方について調査研究を行い、生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
 - 県教育委員会・県高等学校長協会等と連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
 - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校PTAに対して助成を行う。
 - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
 - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

令和3年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考
会 長	田名部 智之	八工大第一	
	泉 夏 樹	青森南	次期会長予定
	葛西達丞	弘前実業	東青地区協議会長
	黒坂広文	八戸東	中南地区協議会長
	中畑哲也	五所川原農林	三八地区協議会長
	足澤勝則	三沢商業	西北地区協議会長
	大調 聡	田名部	上十三地区協議会長
	長内修吾	青森南	下北むつ地区協議会長
	中道 哲	青森南	〃
	黒坂孝孝	八戸東	〃
副 会 長	鈴木 かく子	八学野辺地西	私立高校保護者会推薦
	向田 秀美	八学光星	会長推薦
	飯田 貴子	青森東	〃
	三上 雅也	青森商業	県高校長協会推薦 各地区1名
	中嶋 豊弘	弘前実業	
	明石 進	八工大第二	
	幸山 勉	五所川原工科	
	山口 吉彦	十和田西	
	佐藤 一尚	青森明の星	東青地区協議会
	渡部 靖之	北田	県高校長協会推薦
健全育成委員長	田澤博明	田名部	下北むつ地区協議会
進路対策委員長	三浦繁子	青森中央	東青地区協議会
調査広報委員長	竹村智美	弘前南	中南地区協議会
研修委員長	藤井小巻	八戸東	三八地区協議会

青森県高P連事務局

事務局長	千代谷 均		
事務局次長	原田 豊則		
事務主任	今 美智留		

編集後記

毎日、コロナウイルス関連のニュースを耳にしないことはない日々を送っています。学校行事も周囲の感染状況等を見て、様々な対策を加味しながら中止か延期か実施かという難しい判断を強いられている事と思います。県高P連の活動も同様に、今年の子定がどの程度実施されるかわかりませんが、出来る範囲でその様子をこの「つながり」を通して伝えていきたいと思っています。

私は調査広報委員会に入るまで、この「つながり」の存在を知りませんでしたが、子ども達が高校生活を送る上で有益な情報もありますので、この紙面をご覧になった方はぜひ、周知して頂けると幸いです。

(調査広報委員長 竹村 智美)



令和3年度 収支決算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常収益		16,464,300
うち会費収入		16,454,300
うち雑収入		10,000
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		16,464,300

■費用の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常費用		22,085,000
事業費		19,171,000
うち学校安全普及事業費		600,000
うち共済金等給付事業		9,001,000
その他の事業費		9,570,000
管理費		2,914,000
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		22,085,000

(単位：円)

正味財産期首残額	136,549,074
当期増減額(a) - (b)	-5,620,700
正味財産期末残額	130,929,074

令和3年度 事業計画

◆ 学校安全の普及充実事業

講習会・研修会の開催や共催、後援

◆ 共済金の給付

死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料

◆ その他目的を達成するために必要な事業

安全互助会だより56・57号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

令和3年度 役員名簿

■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	大溝 雅 昭	青森県高等学校PTA連合会元顧問
理事	長内 修 吾	青森県立青森高等学校長青森県高等学校長協会会長
理事	越田 宏 治	青森県立青森東高等学校元PTA会長
理事	三上 雅 也	青森県立青森商業高等学校長
理事	益川 毅	青森県立三本木高等学校元PTA会長
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	沼尾 冬 樹	青森県立十和田西高等学校元PTA会長
監事	對馬 祐 之	青森県立三沢商業高等学校前校長

■評議員

職名	氏名	所属
評議員	藤澤 重 信	八戸工業大学第一高等学校長
評議員	吉田 錦 一	大湊高等学校元PTA会長
評議員	三浦 基	青森高等学校元PTA会長
評議員	木村 真紀子	東奥義塾高等学校前PTA会長
評議員	秋田谷 誠	五所川原第一高等学校元PTA会長
評議員	下山 昌 一	青森西高等学校元渉外主任

令和2年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費(助成金) 300,000円

(1) 県高等学校体育連盟	100,000円
(2) 県高等学校文化連盟	100,000円
(3) 地区協議会安全教育活動費	0円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費 6,355,744円(令和3年3月31日現在)

(1) 死亡共済金	0件	0円
(2) 後遺障害共済金	1件	201,500円
(3) 負傷共済金	226件	6,104,244円
(4) 香料	1件	50,000円

3 その他事業費

- (1) 安全互助会だより55号発行
- (2) 安全互助会手引き配布
- (3) 新入生保護者用リーフレット印刷代

青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制	29,015名
定時制・特別支援学校	1,029名
通信制	322名
総数	30,366名